

## 海外感染症流行情報(2011年4月号)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・エジプトで鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者数が増加傾向

2011年になりエジプトで鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者数が増加傾向にあります。

2010年の患者数は年間29例でしたが、2011年は4月中旬で22例に達しました(WHO Global Alert and Response 2011-4-11)。とくに4月は立て続けに8例が報告されています(WHO Global Alert and Response 2011-4-6, 11)。

2011年のエジプトでの死亡者数は4月までに6例で、致死率は27%になります。2010年は致死率が45%だったことを考えると、今年は致死率が低下している可能性もあります。今後のエジプトでの発生動向に注意が必要です。

### ・中央アジアでのポリオ流行状況

2010年4月以来、中央アジアでポリオが流行しています。最初の患者はタジキスタンで発生し、インドからの輸入例と考えられています。その後、首都のドウシャンベなどで流行が拡大し、2010年は458例の患者が発生しました。この流行はロシア、トルクメニスタン、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタンなどの近隣諸国にも波及しました。こうした流行状況を鑑みて、米国CDCは中央アジア諸国への旅行者にポリオワクチンの追加接種を推奨しています(CDC Travelers' Health 2011-3-18)。

なお、2011年は4月までに全世界でポリオ患者が86例発生していますが、今のところ中央アジアからの報告はありません(Pro MED 2011-4-6)。

### ・ハイチでコレラ流行つづく

ハイチでは2010年10月からコレラの流行が発生していますが、2011年3月末までに患者数は約25万人になりました。このうち約4600人が死亡しています。昨年末までの患者数は17万人であり、今年になり8万人が発生していることとなります。ハイチに滞在する際には、飲食物の注意やワクチン接種などコレラの予防対策を引き続き実施してください。

### ・インドのムンバイなどでマラリアが流行

2010年4月～2011年3月にインドのマハーラシュトラ州では14万人のマラリア患者が発生し、このうち185人が死亡しました(Pro MED 2011-4-6)。州都のムンバイでも137人が死亡しています。流行しているマラリアの種類は熱帯熱マラリアの模様です。

2007年は同州の年間患者数が6万人であり、ここ数年、マラリアの流行が加速していることがうかがえます。この原因は同州で建設工事が盛んになっていることが一因のようです。工事現場では水溜りが増え、そこで媒介蚊が繁殖しやすくなるからです。

同州に滞在する際には蚊に刺されない注意をするとともに、滞在中や帰国後に発熱をおこした場合は直ちに医療機関を受診し、マラリアの検査を受けてください。滞在中にマラリアの予防内服をすべきか否かの統一した見解はありませんが、発病後の医療機関受診で対応は可能と考えます。

#### ・ニューデリーの水道水から多剤耐性菌(NDM-1)を分離

数年前より南アジアの医療機関を中心に、NDM-1 遺伝子を持つ多剤耐性菌の患者が報告されています。2010 年秋には日本でも南アジアからの帰国者に本菌の感染が確認されました。この耐性菌は大腸菌やクレブシエラ菌など腸管内に棲息する細菌の中に認められています。ほとんどの抗菌薬が効かないため、重症化して肺炎や菌血症をおこすことがあります。

2010 年秋に、英国とオーストラリアの研究チームがインド・ニューデリーの水溜りの水や水道水を用いて、この耐性菌の存在を調査しました(The Lancet Infectious Diseases 2011-4-7 online)。その結果、水溜りサンプルの 30%、水道水サンプルの 4%から本菌を分離しました。細菌の種類としては従来から知られている菌以外に、赤痢菌やコレラ菌など病原性の高い菌も含まれていました。

この調査結果は、ニューデリーの医療機関だけでなく広い生活環境に耐性菌が存在していることを意味します。さらに、病原性の高い赤痢菌やコレラ菌から見つかったことは、本菌に感染した場合、容易に重症化する恐れがあります。

インドなど南アジアに滞在する日本人が、日常生活の場でこの耐性菌に感染する機会は少ないと考えますが、水道水の飲用を控えるなど飲食物には十分に注意してください。